

1. はじめに

平成 21 年からの障害者制度改革は 6 年目を迎え、障害者権利条約の履行に関する政府報告がまとめられました。障害者差別解消法は各分野の対応要領・対応指針を作成されて、平成 28 年 4 月から施行されます。また、障害者総合支援法では、施行後 3 年の見直し作業が進められ 3 月の閣議で改正案が決まりましたが、私たち中途失聴・難聴者が要望を繰り返していた障害の範囲を巡る見直しは今回の改正案には盛り込まれませんでした。また、意思疎通支援事業については、今までの地域生活支援事業の枠組みが継続されることになり、大きな変化はない見通しです。

このような状況の中、協会は地域での障害者制度改革の推進に注力して、東京都福祉局との懇談会や都議会各会派との予算ヒアリングを行い、東京都の要約筆記者派遣事業の拡充、中途失聴・難聴者のコミュニケーション学習の充実、バリアフリーな街づくりなどを求めてきました。また、協会の社会的活動を強化するため「中途失聴・難聴者対象指導者養成事業」を協会の自主事業として実施し、日本社会福祉弘済会助成で「聴覚障害者自立学習講座事業」を開催、オラクル有志の会助成で啓発パンフレット「聞こえにくさで困ったら」を作成しました。これらの財団助成事業を実施できたことは、認定 NPO 法人としての協会に対する社会の一定の評価の表れと評価できるとともに、協会の社会的責任をより大きくさせるものであり、自助・共助に加えて新しい公共の担い手としての協会活動を自覚させられた平成 27 年度でした。

2. 協会の対外活動

平成 27 年度の協会の対外活動は、東京都の要約筆記者派遣事業の拡充、コミュニケーション学習の充実を求める行動を中心に進められました。

東京都の要約筆記者派遣事業は「東京都聴覚障害者意思疎通支援事業（広域型行事への意思疎通支援者派遣）運営要綱」に従って実施され、派遣目的の公益性・広域性が強く求められています。その結果、障害者団体の利用が限定され、協会の理事会や専門部の役員会などが対象外となるなど協会活動を大きく制限するものとなっています。事業予算には若干の増加が図られていますが、公益性・広域性を規定する運営要綱の改定については予定されておらず、来年度も粘り強く運動をする必要があります。

一方、コミュニケーション学習やバリアフリーな街づくりに関しては、中途失聴・難聴者手話講習会の継続や東京都手話通訳等養成講習会指導者クラスに中途失聴・難聴者コースを設けるが決まるなどの一定の前進がありました。協会が財団助成や自主事業として実施した「中途失聴・難聴者手話指導者養成事業」は、本来行政が主体となって進められるべき事業です。来年度以降、それが東京都の事業として実施されることになったのは大きく評価できます。

その他、社会への聞こえの啓発活動、会議施設への磁気ループの設置などの解決には区市町村での活動が非常に重要ですので、今年度も「地域活動強化プロジェクトチーム」を継続し、区市町村の中途失聴・難聴者組織との連携を進めました。

3. 協会の対内活動と組織強化

3.1 対内活動

協会の対内活動は平成 27 年度事業方針・活動計画に沿って進められました。8 月には京王プラザホテルで第 30 回「東京都中途失聴・難聴者の集い」を開催しました。30 回の記念の集いということで参加費が高くなりましたが、200 名以上の方の参加があり、協会の歴史を振り返り、現在の協会活動が多く仲間によって支えられてきたことを再確認しました。通年事業としては、前年度同様「地域コミュニケーション講座」や新宿区社会福祉協議会との協働事業「聞こえに関する連続講座」を開催し、地域での中途失聴・難聴者の自立のための学習活動を実施しました。また、例年通り「高齢難聴者生きがい講座」、「手話講習会応用クラス」、「実践読話講習会」などを開催しました。例年協会が実施するこれらの講座、講習会は中途失聴・難聴者が互いの交流を通じて学習を重ねる活動の「場」として実績を積み上げていると評価することが出来ると考えます。

また、今年度は協会自主事業として「手話指導者養成事業」、日本社会福祉弘済会助成「聴覚障害者自立学習講座事業」、オラクル有志の会助成の啓発パンフレット「聞こえにくさで困ったら作成事業」

を実施したことは前述のとおりです。

その他、協会各専門部も個別の活動の中で協会の事業目的の達成に努力し、サークルは協会員の交流の場として非常に大きな役割を果たしました。非協会員や支援いただく人への働き掛けなど多くの課題を抱えています。今後とも専門部・サークルの活動を中途失聴・難聴者の自助・共助の「場」として強化していきたいと考えます。

3.2 組織強化

協会は3年前に協会組織強化のために事業委員会、広報委員会・防災委員会の三つの専門委員会を設置しました。今年度の事業委員会では、既存の協会事業の着実な実行を進めると同時に、新規助成事業の実施を担いました。また来年度に向けても助成事業申請を行い、日本財団の『手話学習教材「豊かなコミュニケーション」初級～上級編「指導の手引」の作成事業』、日本社会福祉弘済会の『シンポジウム 中途失聴・難聴への理解を求めて』事業の助成が決定しました。広報委員会では協会ニュースの見直しを進めると同時に、NPO 法人サービスグラントの協力を得て協会ホームページのリニューアルを行いました。専門部・サークルの活動についてはそれぞれの報告に記載がありますが、各専門部のあり方については活動目的・運営について様々な課題が顕在化してきており、協会活動に必要な専門部のあり方について、H28年度の重要な検討課題として議論する計画をしております。

3.3 協会財政

平成27年度は第2号議案の収支決算報告にありますように、予算704千円の赤字に対して、1680千円の大幅赤字計上となりました。大きな要因としては会費収入400千円の減、物品販売500千円の減、人件費230千円の増などです。数年来の課題となっています。会員拡大に関して、各種の講座・講習会や協会内外の集まりで協会紹介パンフレットを活用した会員の拡大を図ると同時に、リニューアルした協会ホームページを活用した協会紹介・入会PRを行いました。平成27年度の会員数は目標708名に対し672名に止まりました。来年度以降、「協会パンフレット」、「協会ニュース」、「協会ホームページ」を活用して協会内外に積極的な会員増加活動を行い、会員数の停滞をなんとか打開したいと考えます。また、物品販売につきましては「豊かなコミュニケーション」、「聞こえのハンドブック」などの販売については、販売不振の原因を正確に把握し、次年度の拡販体制を整備してまいります。

4. まとめ

協会は認定NPOの資格を得て3年目となります。認定NPOになると、活動のあらましや寄付金の状態を所轄官庁である東京都に毎年報告する必要があります。今年度の新規助成の獲得にあたっては、認定NPOの資格をもった協会に対する社会的信用が大きく貢献しました。しかし財団助成を継続的に受けるためには、実施した事業の評価がどのようなものであるかが大きく問題となります。協会は定款にあるように、会員の自助・共助の場であるとともに公共的な役割を担っています。これからは協会の活動の透明性を高めること、対外的な情報発信を強めることが非常に重要になってきます。私たちの毎日の協会活動をもっと楽しく、拡がりのあるものとするために、社会への働きかけを一層強めていきたいと考えます。

事業報告(一覧)

1. 特定非営利活動に関わる事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	人数
中途失聴者、難聴者の社会参加のための調査・研究、施策のための提案事業	人工内耳入門講座	平成 28 年 2 月 28 日	中野サンプラザ	75
	福祉対策・コミュニケーション関連部活動	年間	東京都障害者福祉会館 他	135
中途失聴者、難聴者のコミュニケーションの充実のための社会教育事業	聴覚障害者コミュニケーション教室	月 1 回、年間 9 回	東京都障害者福祉会館	340
	実践読話講習会	月 2 回、年間 17 回	東京都障害者福祉会館	267
	地域コミュニケーション啓発講座	年間 5 回	日野市・多摩市・墨田区・荒川区・江東区	186
	地域福祉相談支援ゼミ〔応用手話講習会(三田)〕	年間 20 回	東京都障害者福祉会館	768
	応用手話講習会(多摩)	月 2 回、年間 20 回	多摩障害者スポーツセンター	356
	新宿区社協共催事業	年間3回	新宿区社会福祉協議会	53
	中途失聴・難聴者対象手話指導者養成講習会	年間 12 回	東京都障害者福祉会館	276
	聴覚障害者自立学習講座	年間 7 回	東京都障害者福祉会館	109
	「聞こえに困ったら」パンフレット作製	年間	当会事務所	100
	手を動かそう	年間 12 回	東京都障害者福祉会館	157
	講師等派遣	世田谷福祉専門学校・東京手話通訳等派遣センター・新宿区社協・町田市社協・東京都心身障害者福祉センター他		38
中途失聴者、難聴者の諸問題の解決のための情報収集、提供事業及び他団体との連絡調整	「協会ニュース」発行	月 1 回	当会事務所	150
	テキスト・ビデオ作成	年間	当会事務所 他	10
	ホームページ運営	随時更新	当会事務所	36
	刊行物・耳マーク仕入れ	年間	当会事務所	36
	第 30 回集い	平成 27 年 8 月 30 日	京王プラザホテル	227
中途失聴者、難聴者にかかわる相談、支援事業	高齢難聴者生きがい講座	年 12 回	東京都障害者福祉会館	267
	中途失聴者・難聴者相談事業	随時	当会事務所	50
	中途失聴者・難聴者地域支援事業	随時	当会事務所	100
中途失聴者、難聴者の文化・芸術、スポーツの振興を図る事業	文化部各サークル 等	月 1~2 回	東京都障害者福祉会館 他	1200
コーディネーター	高齢難聴者生きがい講座・実践読話講習会・地域コミュニケーション啓発・地域福祉相談支援ゼミ等事業計画・進行管理・会計処理・事務処理	平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日	当会事務所	276

2. 収益事業

自動販売機による委託販売（7か所8台）

東京都庁第一本庁舎鍛冶屋橋クラブ・東京都江戸博物館・東京都第五建設事務所・東京都七生福祉園、東京しごと財団（2台）・東京都第六建設事務所・東京都多摩職業能力開発センター八王子校

事業報告

事務局

1.体制

事務局長:宇田川芳江 職員:坂部美秋、高橋貴子、松枝朋美、木野理恵、百瀬静江、井田いく子、石田豊子

2.活動報告

- ・理事会(4/25・5/23・5/24・6/23・7/25・8/22・9/26・10/17・11/28・12/20・1/24・2/28・3/28)
- ・東京都福祉保健局との懇談会 7/8 (38人)
- ・人工内耳入門講座 2016/2/28 (75人)
- ・新宿区社会福祉協議会共催事業「聞こえの問題を考える連続講座」
10/3・11/14・12/5 (53人)
- ・「手話・字幕付胃検診」受付 9/5(10人) 12/5(20人)
- ・高齢者対象「手を動かそう」月1回第1金曜日12回実施。参加者(延157人)
- ・協会ニュース発送 毎月1回 第2土曜日12回 会員有志の協力(延117人)
- ・「第44回耳の日記念文化祭」参加 3/5・3/6
- ・「自立支援センターまつり」参加 7/20
- ・スタッフ研修会 7/5(36人)
- ・例会 毎月第4日曜日12回

実施日	テーマ	参加者
4月26日	平成27年度東京都意思疎通支援事業説明会	30
5月24日	通常総会	69
6月28日	協会と私	34
7月26日	講演会「今、要約筆記について考えること」	26
8月30日	第30回東京都中途失聴・難聴者の集い	227
9月27日	補聴器の最新事情	25
10月25日	新入会員説明会&交流会	48
11月29日	講演会「ボディーランゲージのススメ遊学」	49
12月23日	クリスマス会	78
1月24日	Past,present,future 生き立ち、そして…	28
2月28日	バリアフリー映画を普及させよう	28
3月27日	目黒巻で災害イメージ力を高めよう	23

事業委員会

1.体制 委員長:新谷友良 委員:大江千枝・小笠原晶子・小橋由里子・宇田川芳江

2.活動報告

- (1)委員会開催 4/15・5/20・6/17・7/22・9/16・10/15・11/18・12/17・1/20・2/18・3/16
(2)関係会議等 4/5(講座運営スタッフ研修) 9/17(事業運営担当者懇談会)

3.事業報告

I 独自事業

- (1)「中途失聴・難聴者対象手話指導者養成講習会」

東京都障害者福祉会館:10/17・10/31・11/7・12/5・12/19・1/16・2/20 (各回2時間) 23 人受講

II 助成事業

(1)日本社会福祉弘済会助成事業:「聴覚障害者自立学習講座」

東京都障害者福祉会館:11/5・11/19・12/3・12/17・1/7・1/21・1/28 (各回2時間) 20 人受講
事業完了報告書を提出

(2)平成 27 年度公益信託オラクル有志の会ボランティア基金助成事業:「聞こえに困ったら」パンフレット作成
「パンフレット」編集チームによる編集・刊行となった。

II 協会委託事業の拡大を図るとともに、下記の既存事業の運営管理を行った。

- ①実践読話講習会
- ②高齢難聴者生きがい講座
- ③地域福祉相談ゼミ
- ④地域コミュニケーション啓発講座(運営担当:組織部)
- ⑤聴覚障害者コミュニケーション教室(東京都委託事業)

III 協会自主事業の拡大を図るとともに、下記の既存自主事業の運営管理を行った。

- ①手話講習会応用クラス
- ②新宿区社会福祉協議会共催事業
- ③手を動かそう講座

IV 各種講習会・講座への講師・スタッフ派遣の拡大を図るとともに、下記の既存事業の運営管理を行った。

- ①東京都中途失聴・難聴者手話講習会
- ②東京都読話講習会

【中途失聴・難聴者のコミュニケーション充実のための社会教育事業】

①高齢難聴者生きがい講座

平成 27 年 6 月 22 日(月)～平成 28 年 3 月 28 日(月) 原則第 4 月曜日 12 回

会場:東京都障害者福祉会館

講師:(読話)桜井武志・大江千枝 (手話)中村みずほ・文化部サークル他 森せい子(情報文化センター)

参加者数:延人数 267 人

回	年月日	内容	担当
1	6月22日(月)	開講式・自己紹介	講師:桜井武志氏・中村みずほ氏
2	7月27日(月)	講演会	講師:森せい子氏(情文センター)
3	8月24日(月)	手話入門講座①	講師:中村みずほ氏
4	9月28日(月)	手話入門講座②	講師:中村みずほ氏
5	10月26日(月)	サークル体験講座	手話サークル三田・昼 絵手紙サークル
6	11月 9日(月)	サークル体験講座	手話コーラスすみれ会 生け花教室
7	11月23日(月)	手話紙芝居	ボランティアグループわノ会
8	12月21日(月)	読話講座①	講師:大江千枝氏
9	1月25日(月)	読話講座②	講師:大江千枝氏
10	2月22日(月)	サークル体験講座	多摩手話ササークル 多摩火曜手話サークル
11	3月14日(土)	サークル体験講座	手話サークル三田・昼 読話サークル
12	3月23日(月)	修了式・交流会	

②手話講習会応用(三田 I / II・多摩 I / II)

◇三田応用 I / II 平成 27 年 4 月 23 日～平成 28 年 3 月 14 日 計 20 回

会場:東京都障害者福祉会館

講師:橋本美知子・長沼知子

参加者数【応用Ⅰ】受講者 27人(延人数 421人) 【応用Ⅱ】受講者 22人(延人数 347人)
◇多摩応用Ⅰ/Ⅱ 平成 27 年 4 月 28 日～平成 28 年 3 月 15 日 計 20 回

会場:多摩障害者スポーツセンター

講師:安雙八重子・岡田恵美子

参加者数:【応用Ⅰ】受講者 7人(延人数 136人) 【応用Ⅱ】受講者 22人(延人数 220人)

③実践読話講習会

平成 27 年 5 月 20 日(水)～平成 28 年 2 月 17 日(水)毎月第 1・3 水曜日 18:30～20:30

年間 17 回(開講式・修了式・講演会1回を含む)

会場:東京都障害者福祉会館 B1

講師:桜井武志・大江千枝 助手:石井やい子・橋高久美子

参加者数 受講者 22 人(延人数 267 人)

④東京都中途失聴・難聴者手話講習会

⑤地域福祉相談支援ゼミ

⑥講座運営スタッフ研修「中難協の仕組みと課題」等 7/5 (36人)

(4)講師派遣事業 (38回)

①世田谷福祉専門学校 9/10 9/24 10/8 11/5 11/12 11/19 11/26 12/3 12/10 12/17 1/14 1/21
1/28 2/4

②国立障害者リハビリテーションセンター学院 9/30 10/7 10/14 10/21 10/28

③新宿区社会福祉協議会共催事業 10/3 11/14 12/5

④町田市社会福祉協議会 4/20

⑤北区登録手話通訳者研修会 5/14

⑥東京手話通訳等派遣センター(東京都手話通訳者等養成講習会)8/9 9/2 11/25(昼夜)

⑦小平要約筆記サークル「ほおずき」7/4 7/8 7/15

⑧東京都心身障害者福祉センター 7/2

⑨江戸川区中途失聴・難聴者の会 6/20

⑩東村山要約筆記サークル ゆいま～る 2/9

⑪中野区中途失聴・難聴者の会 8/8 11/14 1/9 3/12

(5)新規自主事業の開発について

○助成事業

①オラクル有志の会ボランティア基金「聞こえに困ったら」パンフレット作成

②日本社会福祉弘済会「聴覚障害者自立学習講座」

(6)その他

①新宿区社会福祉協議会共催事業への提案 3回開催決定

広報委員会

NPO法人にふさわしい広報活動に向け、協会の広報媒体を見直し、刷新に努めた。

1. 体制

委員長:新谷友良 委員:小島敦子・寺田翔・皆川みさ子・山内菜央子 事務局:宇田川芳江

2. 活動報告

(1)委員会を開催した。4/14・5/12・6/9・7/14・9/8・10/13・11/10・1/7・2/11・3/3

(2)「協会ニュース」について、会報編集部と内容・編集作業の見直しを進めた。

(3)協会ホームページについて、リニューアル後のさらなる充実を図るための話し合いを進めた。

(4)啓発パンフレットの作成について、話し合いを行った。

防災委員会

1. 体制

委員長:木村昭夫 委員:小川光彦・平野英夫・松之木礼毅

2. 取り組み状況

1)会議の実施

- ・委員会開催 毎月1回平日夜間開催
- ・全要研東京支部減災支援隊と合同協議

2)企画の実施

- ・1月31日独自企画「情報保障付きで学ぼう!!救命方法」を実施。
- ・3月27日例会「目黒巻で災害イメージ力を高めよう!!」を担当実施。

3)委員会内重点課題

- (1)緊急速報メールの都内区市町村の状況調査、エリアメールの携帯電話会社調査、防災関連アプリ、災害伝言板等の調査実施
- (2)会員の安否確認のためのメールマガジンを活用するための運用ルールやサービスなどの活用方法などを情報収集の実施
- (3)防災に関するアンケート調査を実施するための予算やスケジュール、内容について確認し来期実施に向けて準備を実施

地域活動強化プロジェクトチーム

1. 体制

明田美奈子・有馬富江・宇田川芳江・小島敦子・皆川みさ子

2. 目的 中難協と地域難聴者の会が互いに尊重しあい、協力し合って活動していくための取り組みや関係を探るために発足

3. 2013年より、地域の声を聞く会を2回開催。2015年度はアンケートを実施。

4. 活動報告

- ・地域の会の現状を知り、協会との協力関係について考え、報告。
- ・地域ごとに特色ある活動をしている地域の会が、必要に応じて協会に協力を要請できるよう、情報提供を密にすることが求められる。
- ・地域活動がさらに充実するよう、講座・行事への協力、情報発信も引き続き充実させていくことが望ましい。組織部の講座、NWニュースへの期待も高い。

コミュニケーション対策部

1. 体制

部長:福田能文 部員:2人

2. 活動報告

コミかるカフェ作ろう! 第23回テーマ 自分たちの人権を考える ~ろう LGBT から学ぶこと~

7月24日(金)午後19時 東京都障害者福祉会館にて実施。参加者数は23名で定員を超えるほど盛況だった。ろうであり、LGBT(性同一性障害など性的マイノリティ)を併せ持ち、社会に理解を求めて活動してきたかえでしん氏を招いてのワークショップを開催した。LGBTを通して人権について考えるワークショップとして企画した。参加者の身近なテーマをグループで話し合い、人権について語り合った。

福祉対策部

1. 体制

部長:小川光彦 副部長・会計:宮本忠司 構成人数:7人(総務・広報担当を分担)

2. 活動報告

1)協会内部

- ・部会実施 4/30、5/26、6/10、8/12、9/3、10/14、11/11、12/9、2/5、3/17の10回
※7/16、9/9、1/21部会は大雨警報等で中止。
- ・施設・交通アクセシビリティ活動

アクセシビリティ関連事例の収集、チェックシート作成の取り組み
Facebook ページにアクセシビリティ事例の蓄積(4 月以降 110 件以上)。

- ・音声認識システムの学習について
9/12 に会員の要望を受けて講座実施。木村副理事長提案・協力。参加者 28 人(部員除く)
- ・ふくしのまちづくり条例についての学習
2/7 に東京都の嶋岡係長を呼んで講演、学習。約 10 人参加
- ・参政権状況のチェック
- ・協会ニュースへ随時福祉関係情報提供
- ・9/27 9 月例会(補聴器・瀬部保夫講師)担当 約 25 名参加
- ・その他協会諸行事の実施協力

2) 協会外部

- ・7/8 東京都予算交渉懇談会 要望案の検討

3. 反省点

- 1) 昨年末、施設・交通アクセシビリティをメインテーマとして活動することを再確認したが、「会員を巻き込む形にしないと発展がない。行事開催を通し、協会外部にも波及可能な内容としたい」という反省がある。
- 2) 協会財政状況を考慮し、行事開催にあたって部の独自収入をはかり、部の運営維持、効果的な事業実施に努めている。継続する。
- 3) SNS 活用について
施設・交通アクセシビリティのデータ蓄積をはかっている。事例を集め、都交渉などでの要望内容に生かしていきたい。具体的には東京都福祉のまちづくり条例に関して、毎年東京都の話聞き、要望内容を固める流れを作りたい。東京都の福祉のまちづくり係長をお呼びして、学習・意見交換を持った。今後の要望行動につなげたい。

要約筆記普及部

1. 体制

部長：神野見帆 副部長：宇田川芳江 部員：4 人

2. 活動報告

- (1) 部会開催 4/28 6/16 11/24 2/16
- (2) 7 月例会担当 (7/26)
～「今、要約筆記について考えること」難協者運動の歴史を振り返りながら～
講師：全難聴要約筆記部副部長 藤谷弘晃氏 参加者 26 名
- (3) 要約筆記を丸ごと知る連続講座 (5/28 6/25 7/23 9/24)
講師：三宅初穂氏 参加者(定員) 15 名
- (4) 登要会との交流会 (1/9) 会場：キムラヤ(港区勤労会館) 参加者 27 名
- (5) 全難聴要約筆記研修会 滋賀県大津市(平成 28 年 1/23、24) 部員 4 名全員参加

手話対策部

1. 体制

部長：明田美奈子 副部長：井上順子・河合優子 会計：山口純子 部員：26 名

2. 活動報告

- (1) 定期部会 毎月第 1 月曜日 18 時 30 分～ 協会からの情報提供や報告
- (2) 年 2 回部員研修、一般会員への部員によるミニ手話講座開催
- (3) 年 2 回広域範囲でろう講師による手話学習会 参加費:1,000 円徴収 収益は協会へ還元
- (4) 月 1 回部員による自主学習会(講師:板宮由美子氏) 参加者 14 名前後 参加費:1 回 1,000 円
- (5) 協会主催行事への協力

27 年度活動内容					
回	日程	出席者	参加者	内 容	摘 要

1	4/6	14名		定期部会	・連絡網体制、年度企画の話合い 例会、ミニ講座、特別講演会、部内研修等
2	5/11	18名		定期部会	・情報提供、報告、総会出席協力要請
	〃			部内研修	・講師:板宮由美子氏
3	6/1	14名		定期部会	・ミニ手話講座(9月13日)について担当等決める。 ・協会例会について(11月29日)
4	7/6	10名		定期部会	・ミニ手話講座の打ち合わせ
5	8/3	12名		定期部会	・ミニ講座担当グループ、講師、助手等の決定 例文作成
	8/23	10名	37名	特別講演会	・ろう講師:那須英彰氏による手話学習
6	9/7	12名		定期部会	・ミニ手話講座の打合せ、手話表現の練習
	9/13	22名	38名	ミニ手話講座	・部員によるミニ手話講座(7グループ編成)
7	10/5	12名		定期部会	・情報提供、報告、11月例会担当について話し合い
8	11/2	13名		部内研修	・講師:五十嵐郁子氏
	11/29	12名	37名	11月例会	・講師:庄崎隆志氏「ボディランゲージのススメ遊学」
9	12/7	11名		定期部会	・特別講演会、ミニ講座の話し合い
10	1/11	12名		定期部会	・28年度予算活動計画等の話し合い
11	2/1	13名		定期部会	・ミニ講座の打ち合わせ
	2/7	10名	70名	特別講演会	・ろう講師:米内山明宏氏による手話学習
12	3/7	14名		定期部会	・ミニ講座の最終打ち合わせ
	3/13	16名	29名	ミニ手話講座	・講習会助手による手話指導、講師が助手でフォロー

会報編集部

1. 活動報告

(1)会報「協会ニュース」の編集(毎月第2土曜日発行)No.348~No.359(2015/4~2016/3)

(2)編集会議を開催

27年:4/8 5/13 6/10 7/15 8/12 10/14 11/11 12/9

28年:1/13 2/10 3/9

(3)初校チェック コロニーからの初校を複数のメンバーでチェック

27年:4/1 4/22 6/4 7/1 7/29 9/2 9/30 11/4 12/2 12/19

28年:2/3 3/2 3/30

※その他、ほとんど毎日のようにパソコンでの作業あり。

組織部

1. 地域ネットワーク活動

ネットワーク・ニュースの発行:2015年12月に100号を迎えた。101号以降は休刊。

2. 地域コミュニケーション講座の開催

地域ネットワークの活動に平行して、地域での聞こえに困っている方を対象にその社会参加を促す地域コミュニケーション講座を以下5箇所で開催した。

月日	テーマ	会場	講師	共催
6月21日	聞こえに困って見えてくるものと聞こえてくるもの	多摩平交流センター	新谷友良氏	国立要約筆記サークルダンボ
9月12日	聞こえとコミュニケーション	すみだ産業会館	西尾彰子氏	
11月7日	防災への日頃からの備え&救急時の対応	立川防災会館	和田俊則氏	

1月31日	難聴者のコミュニケーション	アクロス荒川	谷 千春氏	
3月12日	聞こえにくさを相手に伝えるコツを考えよう	豊洲文化センター	宇田川芳江氏	練馬区聴覚障害者協会中難部

3. 10月25日、「新入会員説明会・交流会」を担当した。
4. 上記事業計画を実行するため、月1回の組織部会を開催した。

実年部

1. 体制

部長: 関根一喜 会計: 長内節子 部員: 幡山温子・太田邦夫・橘高久美子

2. 活動報告

- ① 役員会: 毎月第一木曜日 13:30~16:00
- ② 月例会: 室内・屋外を企画実施、毎月第三金曜日、年間7~8回、
室内例会会場は東京都障害者福祉会館、野外例会は軽ハイキング・自然観察・施設訪問等
- ③ 協会ニュース、実年部のページを有効活用
- ④ 年に1回、協会月例会を担当
- ⑤ 協会行事への参加協力(総会・集い等)

例会実施内容

例会日	内 容	人数
4月17日	「東京トリックアート迷宮館・見学会」	27名
6月19日	「映画上映会」交通事故裁判他	20名
7月17日	「趣味の手話落語・手話コーラスと共に」 講師: 大原忠夫氏(芸名: 阿保亭あほ氏)	38名
9月18日	「余生をどう生きるか」講師: 安藤雄太氏 ※全難聴関東高年部と共催	61名
10月16日	「小江戸川越・ロマン散策」	18名
11月20日	「手話をもう一度」講師: 中村みずほ氏	44名
1月15日	「初詣と新年会」虎ノ門金比羅宮	27名
2月21日	協会月例会に協力	
3月18日	茶話会	28名

女性部

1. 体制

部長: 明田美奈子 会計: 樋口真弓

2. 活動報告

役員会: 毎月1回

会 場: 東京都障害者福祉会館

実施日	行事内容	参加者	関係行事
4月	休会		
5月	休会		5/11 全難聴女性部・関東ブロック第1回会議 5/24 協会第30回通常総会
6月4日	平成27年度企画会議	2	
7月16日	役員会議	2	7月4日~6日 第24回全難聴女性部・県部会総会(北海道)

8月 6日	役員会議	2	8/30 協会第30回集い(京王プラザホテル)
9月 5日	子育て四方山話	10	
10月15日	役員会議	2	
11月19日	役員会議	2	11/21～ 第21回全難聴福祉大会(香川)
12月17日	役員会議(1月企画の話し合い)	2	協会クリスマス会
1月21日	役員会議	2	
1月30日	折り紙で楽しもう	10	
2月18日	役員会議 28年度企画話し合い	2	
3月3日	役員会議	2	3/18 全難聴女性部・関東ブロック会議(横浜)

青年部

1. 体制

部長:寺田 翔 副部長:石川寛和 会計:酒井宏長 企画:安達さやか・渡辺江美 一般部員:12名

2. 活動報告

4月	Lunch会@表参道
	女子限定企画@三田
6月	「難聴女子集まれ!～フリーde ディスカッション～」開催 東京聴覚障害者自立支援センターまつりにて青年部企画
7月	「みんな de ディスカッション」開催
	Lunch会@五反田
9月	映画『レインツリーの国』字幕モニター協力
	Lunch会@渋谷
11月	TOKYO 手話カレッジ協力@首都大学東京 映画『レインツリーの国』字幕モニター&TV撮影協力
12月	Xmas会@恵比寿
1月	例会「past, present, future 生い立ち、そして・・・」開催
2月	Lunch会@三田

文化部

【手話サークル 三田昼】

1. 体制

代表:中村麻子 副代表:井上政枝 会計:田原達代・長尾征子

2. 活動日 毎月第2金曜日・土曜日(13時30分～15時30分) どちらか選り参加

毎月第4土曜日・合同(10時00分～12時00分)

3. 講師:第2金曜日・土曜日:五十嵐郁子先生

第4土曜日・合同日:中村みずほ先生

4. 会 員:67人

5. 内 容:手話学習・8月ランチ付き交流会・12月クリスマス交流会

【手話サークル 三田夜】

1. 体制

(1)運営委員

代表:小貫孝 副代表:田原達代 総務:鍛冶聡 会計:井上春江 補佐:鈴木蘭子 会計監査:新木功久

(2)指導者 ふくろうクラス:宮本正明氏 みみずくクラス:内山恵美氏

(3)会 員 57名

2. 活動報告

- (1)活動日 毎月第1・第3土曜日、午後6時～8時
- (2)活動内容 手話の学習と交流を通じて、会員相互の理解と親睦を深める
- (3)手話学習会 年間20回。親睦会-春の日帰り旅行、納涼会、秋の一泊旅行、忘年会、新年会など

【多摩手話サークル】

- 1. 体制
代表:志村瞳 副代表:青木房子 会計:牧本恵美子 部員:24人
- 2. 例会日 毎月第2、第4木曜日
- 3. 会場 東京都多摩障害者スポーツセンター 時間 午後1時30分～3時30分
- 4. 活動報告
4/9(総会)・4/23・5/14・5/28・6/11・6/25・7/9・7/23(講演会)・8/13(夏休み)・8/27(納涼会)・9/10・9/17・10/8・10/22(野外活動)・11/12・11/26・12/10・12/18(クリスマス会)・1/14・1/28(新年会)・2/4・2/25(反省会)・3/10・3/24(役員改選)

【多摩火曜手話サークル】

- 1. 体制
代表:中尾ミヨ 会計:草間友子
- 2. 講師:真藤千枝先生 会員数:34名
- 3. 会場 東京都多摩障害者スポーツセンター
- 4. 例会日 毎月第1・第3火曜日 午後1時30分～3時30分
- 5. 活動内容
勉強会・・・4/7 5/19 6/2 7/7 9/1 10/6 11/17 (11回)
自主学習・・・6/16 7/21 9/15 10/20 2/16 (6回)
総会・・・4/21
交流会・・・12/15
皆さんと楽しく交流し、仲間との親睦を深め、手話の向上を目指しました。

【三田書道サークル】

- 1. 体制
代表:片山善衛 会計:岡見栄子 運営委員:山田紗知子 部員:11名
講師:木下修子(書道師範)
例会:毎月第1・3木曜日 午後1時30分～4時(臨時あり)
会場:東京都障害者福祉会館
- 2. 活動報告
中国、日本の古典の有名な名筆の臨書を学習の基本としている。2015年5月からは、3月の耳の日記念文化祭の展示品の作成を目標に、メンバー各自の好きな書体を添削習字し、その結果、文化祭で好評を博した。

【生け花教室】

- 1. 体制 代表:飯野堯子 副代表:中村久実子 部員:6名
活動日 毎月第1・3水曜日(月により第2・4水曜日に変更あり) 午後6時～9時(この間はお稽古自由)
場所 東京都障害者福祉会館
- 2. 活動報告
今年も「耳の日文化祭」に出展できました。日頃の成果をご来場いただいた方々に観ていただき、春の息吹を感じていただけたと同時に、出展者にとり今後のお稽古の励みになりました。
また、「生きがい講座」での講演依頼を受け、受講者の方々と実際に生け花をとおして交流できましたことに感謝しています。
今年も、代表が出展した松屋・高島屋の花展に足を運び勉強になりました。

【手話コーラスすみれ会】

1. 体制 代表:堀江晴子 副代表・会計:加藤津和子 運営委員:所たづる・渡辺敏子 会員:15名
2. 例会 第1・第3水曜日 午後1時30分～4時 東京都障害者福祉会館
3. 活動報告

活動歴19年。例会では毎回、会員の希望曲6～7曲を選び四季の移ろいを手に載せて楽しんでいます。活動後のミーティングタイムでは今後の計画を話し合い、情報交換の大切なひとときです。恒例の食事会、一泊旅行、クリスマス会は親睦を深める楽しい行事です。10月には生きがい講座サークル体験に参加させていただき、皆さんと楽しい有意義なひとときを過ごすことができました。

【三田絵手紙サークル】

1. 体制

代表:片山善衛 会計:吉田桂子 運営委員:堀川すみれ・宇賀神聡子 部員:12人
講師:石井幸子(日本絵手紙協会講師)
例会:毎月第2木曜日 午後1時30分～4時(臨時あり)
会場:東京都障害者福祉会館

2. 活動報告

植物、野菜、果物、行事など季節の移り変わりを題材として、楽しい絵を描き、親しい方にポストインする学習をしている。生きがい講座、耳の日記念文化祭での絵手紙体験学習は大変好評だった。

【読話サークル】

1. 体制

代表:沖田健吉 会計:井上春江・石井やい子 運営委員:入月幸子・大江千枝

2. 活動報告

平成5年に設立。設立当時から代表を担っていた桜井武志氏が、平成27年9月逝去し、新体制でスタートしました。学習中も活発に会話し、パワーポイントを使用して参加者全員がわかるまで掘り下げ読話学習をしています。

3. 活動日 毎月第2・4水曜日 18:30～20:30 場所:東京都障害者福祉会館 B1

【昼の読話サークル】

1. 体制

・代表:脇坂宏(A) ・副代表:高井和江(B) ・会計:岡見栄子(B) ・副会計:窪田陽子(A)
・委員:小林俱子(A)・田中一江(A)・石塚美恵(B)・加藤津和子(B) ・講師:桜井武志(9月末まで)

2. 活動

- ・(A)第1・第3水曜日()は参加者数
4/1・4/15(11)・5/6(13)・5/20(14)・6/3(11)・6/17(12)・7/1(9)・7/15(13)・8/5(12)・9/2・9/9(27)
- ・(B)第2・第4水曜日()は参加者数
4/8(12)・4/22(11)・5/13(13)・5/27(13)・6/10(13)・6/24(13)・7/8(13)・7/22(11)・8/26(13)
- ・8/21 合同昼食会(御茶ノ水 聚楽台)
- ・桜井講師急逝のため10月以降は第1・第4水曜日に確定
10/7(23)・10/28(17)・11/4(21)・11/25(14)・12/2・12/9(18)・1/20(12)・1/27(14)・2/3(17)・2/24(24)
3/2・3/23

【天文サークル オリオンの会】

1. 体制 代表:藤田克己 会計:押田深雪 他会員6名

協働団体:全国要約筆記問題研究会東京支部、新宿区字幕作成サークル「バックコート@」他

2. 活動

- ①9/27 なかのゼロ 字幕付きプラネタリウム&字幕付き名月観望会
- ②部会4回(6/11、9/10、11/12、1/14)